

平成 13 年度 SGST 第 5 回研究会 議事録

日時 : 平成 13 年 12 月 18 日(火) 16:00~18:00

場所 : 中部大学技術文化専門学校 6 F 大学院講義室

講師 : 時田英夫氏 (首都高速道路公団), 野中晴夫氏 (松尾エンジニアリング株)

出席者: 赤塚(宇野重工), 安藤(瀧上), 岡田(シグマ・ガル), 小川(名古屋道路工社), 小澤(日本車輛), 小塩(名大), 勝俣(佐藤鉄工), 鎌田(東京建設コンサル), 河尻(N K K), 櫛田(帝国コンサル), 熊沢(宇野重工), 小澤(建技研), 近藤(名城大), 桜井(東京鉄骨), 佐光(第一技研コンサル), 左合(瀧上), 塩見(中部大), 柴田(大日コンサル), 清水(信州大), 杉浦(日本構研), 竹内(東海鋼材), 竹田(IHI), 田中(日本車輛), 田中(日本電子計算), 田中(中部復建), 忠(豊田高専), 土井(N K K), 鳥本(中央コンサル), 長谷部(名工大), 深田(金沢大), 藤澤(日本建設コンサル), 古市(第一技研コンサル), 酒造(大同工大), 水野(篠田製作), 宮下(日本電子計算), 森(名高速), 山田(名大), 吉川(日本車輛), 芳崎(日本車輛), 渡辺(オリエンタルコンサル), 中川(瀧上), 以上 41 名 (敬称略)

1. 定期研究会

講演 「首都高速の疲労損傷事例集等」

時田英夫氏 (首都高速道路公団 工務部設計技術課 課長補佐)

(講演の概要)

首都高速において発生している疲労損傷事例について紹介があった。桁の老朽化, 大型交通車両の増加に伴い, 年々, 疲労損傷が増加しているとのこと。これら疲労損傷の発生原因として, ディテールの形状不良, 製作時の施工不良が考えられるとのこと。また, 疲労損傷の点検は, ゲルバーヒンジ部, 吊り金具溶接部, 対傾構ガセット溶接部などを重点的に行っているとのこと。

講演 「トルクアップ工法とスカッドロック工法について」

野中晴夫氏 (松尾エンジニアリング株)

(講演の概要)

トルクアップ工法 (油圧不要ジャッキシステム), および, スカッドロック工法 (鉄筋の瞬間接合技術) について, ビデオ, および, 実物デモンストレーションによる紹介があった。

トルクアップ工法とは, 従来の油圧ジャッキにくらべ, 小型, 軽量のトルクジャッキ (製品名: トルクアップ) を使用したジャッキアップ工法のことである。このトルクジャッキは非常にコンパクトであるため, 狭隘部の支承取替工などに有効であるとのこと。

また, スカッドロック工法とは, スタッド溶接 (製品名: スカッドロック) による鉄筋継手工法のことである。この工法は, 切断したコンクリート面から鉄筋頭部が僅かに露出していれば継手可能なため, R C 床版取替時などにおいて常々問題となる, ハツリ騒音 (チッピング) から逃れられるとのこと。

以上//

平成 13 年度第 5 回 SGST 幹事会 議事録

日時 : 平成 13 年 9 月 27 日(木) 14:40~15:40

場所 : 中部大学技術文化専門学校 6F 大学院講義室

出席者: 塩見(中部大), 小澤(日本車輛), 清水(信州大), 忠(豊田高専), 酒造(大同工大), 安藤(瀧上), 田中(日本車輛), 芳崎(日本車輛), 杉浦(構研情報), 中川(瀧上) 10 名

幹事会議事内容

1. 定期研究会について

- ・ 2 月 19 日(火) 開催予定の定期研究会講師
葛先生(名古屋大学)
安藤氏(瀧上)

2. SGST 会則の運用について

2 - 1. 以下の 1), 2) について, 次回までの宿題とする. 各幹事

1) 特別会員の規定

- ・ 特別会員(団体)の場合, 何人まで会員とするか.
- ・ 特別会員の区分をどうするか.(第 1 種と第 2 種で区分するか)

2) 途中入会の場合の会費納入

- ・ 正会員の場合, 全額支払い(2,000 円)とするか.
- ・ 特別会員の場合どうするか

2 - 2. 会員継続の確認

- ・ ほぼ脱会状態であるが, 脱会届を提出されていない会員に対しては 2 年に 1 度くらいの割合で継続の意志を確認する. 但し, 元 SGST 代表など, 本会の運営に貢献された方については顧問というかたちで残っていただく.

2 - 3. 各研究委員会の会計報告

- ・ 1 年経過後に中間報告を行っていただく.
- ・ 2 年間の委員会活動予算(100 万円)に対して, 初年度に半分の 50 万円を支払い, 残りの 50 万円については, 中間報告後に支払うものとする.

2 - 5. 活動報告集

- ・ 今年度の SGST 報告集は, 前年度の形式を踏襲する.
- ・ 各研究委員会の概要は, 4 月の総会において中間発表というかたちで紹介する.

3. 見学会について

- ・ 4~5 月頃実施する.
- ・ 見学会の候補地には実験関係も含める.

4. その他

- ・ SGST 研究会の在り方について, 各会員に E-mail にて開催時期, 開催曜日などのアンケートを実施する.
- ・ SGST 研究会の形式は, 今後, 幹事会で取り決めるものとする.
- ・ 幹事の選出方法について次回までの宿題とする. 各幹事
- ・ 過去に代表または幹事長を務めた会員は, 顧問と称し相談役となっていていただく.(幹事会, 総会で承認された者)
- ・ 25 周年記念事業を実施する.(創設者福本先生の特別講演などが候補)
- ・ HP の活用について, 以下の意見が出された. 今後, 詰める必要がある.
 - 1) 報告集は HP 掲載のみとし, 冊子を無くしてはどうか.
 - 2) HP 運営の予算配分を多くしてはどうか.

以上//